

昭和大学藤が丘病院 藤が丘リハビリテーション病院だより 第290号

第290号【2013年3月】
発行者：昭和大学藤が丘病院
昭和大学藤が丘リハビリテーション病院
発行責任者 三邊 武幸
(広報委員会委員長)



- 巻頭言『定年を迎えて』 ～ 藤が丘病院 ～
病院長・消化器外科教授 眞田 裕
- 『定年を迎えて』 ～ リハビリテーション病院 ～
病院長 嶽山 陽一
- 『定年を迎えて』 ～ 藤が丘病院 ～
耳鼻咽喉科教授・医長 三邊 武幸
- 3月11日『東日本大震災』の黙とう
- 『その他行事について』
- 『ボランティア募集について』
- 『診療統計』2013年1月・2月

巻頭言 『定年を迎えて』 ー藤が丘病院ー 病院長・消化器外科教授 眞田 裕



この3月末日をもって外科学教授の定年を迎えることができました。これも偏に昭和大学の先輩・同僚・医療スタッフの皆様のご指導の賜物と心より御礼申し上げます。藤が丘病院・リハビリテーション病院の皆様には平成3年からお世話になりました。定年に臨み、この22年間一緒に働いた皆様のお顔が私の目の前を走馬灯のようにめぐっています。

私は昭和48年3月に指導担任 中山徹也教授に「天才とは努力の謂なり」というお言葉を頂いて母校を後にしました。凡人の君は人一倍努力しなさいよ、というメッセージだと理解し、この言葉を胸に秘めて学外で小児外科・外科代謝栄養学を研修しました。その後昭和63年から3年間豊洲病院外科で消化器外科手術を学び、藤が丘病院に移りました。

当院外科では小児外科を担当させていただきました。前任の先生方と看護師長さんのお蔭で小児外科はよく整備されていましたので、気持ちよく診療をスタートできました。青葉区医師会の小児科医会に加えていただき、小児科クリニックの休日診療にも外科疾患の処置に駆り出されたことなどを楽しく思い出します。

平成11年には外科医長に選任されました。外科は消化器疾患の手術が主体の診療科ですので私の力量不足の為に迷惑をおかけしましたが、私と一緒に苦勞してくださった外科スタッフの皆様には心から感謝しております。外科医長の傍ら、当時の病院長から救急体制の整備を命じられました。病院各部署の方々にお集まりいただき「救急医療を考える会」を発足して討議を重ね、平成15年9月に満を持してER(2次救急)を開設しました。救急医療は病院スタッフにとってかなりの努力が要求される厳しい仕事です。此の10年間ご努力いただいた皆様に敬意を表したいと存じます。本年1月からは救命救急センター(3次救急)とERが合同で救急患者さんを診ることができる体制になりました。向後も何らかの問題が生じるとは思いますが、皆様が力を合わせて救急医療に携わってくださることを念じております。

平成19年12月に病院長に選任され、外科から外れて病院長業務に専任することになりました。藤が丘病院は開設以来30年余が過ぎ、建物と組織に其々現状に合わなくなった部分がありますので、それらを整理して経営状態を改善する必要があります。就中、リハビリテーション病院との機能統合と保険診療の管理体制の改革は待ったなしの大命題です。現在、病院スタッフの皆様にはこれらの問題解決にご努力いただいている最中で、此の疾風怒濤の如き日々大いに汗をかいてくださった皆様、嶽山陽一、三邊武幸、高橋寛の各先生方、石橋看護部長、萩原、阿久津、沼尻事務部長に感謝致しております。今の私たちの努力は、新しい藤が丘病院・藤が丘リハビリテーション病院の建設の原動力になります。私は暫く病院長職に留まりますが、新たな病院の礎を固めることができるように皆様と手を携えて頑張りたいと存じます。昭和大学の皆様方には引き続きご厚情を賜りたくお願い申し上げます。



昭和43年に入学以来、本年3月まで足かけ45年間を昭和大学で過ごさせていただきました。実に人生の3分の2以上、昭和大学の歴史の半分以上に関わらせていただきましたことに、心から御礼申し上げます。入学当初の母校の評価は、今とは違ってお世辞にも高いものではなく、それ故、母校に身を置くことに決めて、新谷教授が率いられていた第三内科に入局させていただきました。

当時は急性心筋梗塞という死亡率は30%、退院まで2カ月ほどを要していました。片桐先生のご下命で始めた犬を用いた実験的心筋梗塞の電子顕微鏡による微細構造変化の急激な進展に、目からウロコが落ちる思いで、これは何とかせねばと思い、見よう見まねで始めたのが当時わが国でもはやりはじめた心臓カテーテル検査でした。

学内外でのいろんな反発や抵抗にもめげず、血栓溶解薬や風船によるカテーテル治療も、みるみるどんどん進化して現在のスタンダード治療となっていきましたが、この間にもカテーテルを用いて心房ホルモン(ANP)や微小血管性狭心症(MVA)等の検討もやらせていただきました。そしていつの間にか、カテーテルの出来る若い先生達も数多く育ち、日本でも有数の施設にまでなりました。

その頃には40代後半になっていましたが、片桐医学部長の御尽力で、平成9年には、初代の春見建一教授、前任の真島三郎教授のあとを受けまして、藤が丘病院の循環器内科医長に単身で就任し、平成12年からは同教授を拝命して、引き続いてカテーテルを中心とする日常臨床に没頭させていただきました。冠スパズムの検討で、数々の賞をいただいたり、ガイドライン作成の班員として活動出来たことは、思い出深いものがあります。

しかし、所詮は浅学非才の身、ご定年後の春見先生には回診に御参加いただいたり、研究費も苦面していただいたりして、言葉には出来ないほどのお世話になりました。

平成19年からは、リハビリテーション病院の病院長を命じられました。が、非常に厳しい医療情勢の中、時代の流れにも押されながら色々運営改善を提案し、努力も試みましたが、なかなかうまくは行かず、二期目の任期後半には、水間教授によるリハビリテーション科の設置、藤が丘病院からの眼科の移設に加えて、内科の応援を頼んで、急性期病院の藤が丘病院からの亜急性期患者様の積極的な受け入れ体制を整えて、現在の医療ニーズに添えていこうとしているところです。あと1週間たらずで任期切れとなりますが、本来の後任の藤が丘病院の循環器内科には、すでに去年の9月から教授になった鈴木洋先生が5年前から着任して、ますます循環器内科を充実・発展させておりますし、リハビリテーション病院の後任には前耳鼻咽喉科教授で藤が丘病院の副院長をお努めいただいた三邊武幸先生に引き継いでいただくことになっておりますので、全く後顧の憂いなく任期を全うすることが出来ました。

これまでの不束な私を、いろんな面から支えていただいた藤が丘病院・循環器内科の先生方をはじめ、リハビリテーション病院の先生方やオール・スタッフの方々に深甚の謝意を込めて、退任のご挨拶とさせていただきます。長い間本当にお世話になりました。ありがとうございました。



昭和41年4月昭和大学に入学し、平成25年3月定年を迎え耳鼻咽喉科教授、医長を退職いたします。

退職にあたり昭和大学での思い出についてお話ししたいと思います。大学での思い出の中心は、学生時代でした。入学が決まり入学式が終わり、翌日から富士吉田での寮生活が始まりました。私は、寮の2回生で寮の学生は、医学部、薬学部の男子生徒だけでした。

寮生活の思い出は、第一は、寮の立地です。寮のすぐ後ろに富士山があった事。今でも富士山をみると寮生活が蘇ります。寮生活の良いところは、環境とともに多く

の友人が出来たことでした。昨年広島で卒後43年目の同級会があり、やはり話題の中心は寮生活の思い出でした。富士吉田では、サッカー部、硬式テニス部、アイスホッケー部(アイホ)に入りました。退寮後は、硬式テニス、アイホ中心の学生生活でした。

大学 5 年生に全共闘(東大、日大)運動を経験しました。夏休み自主カリキュラムによる講義を諸先生に依頼し、東日本医科学生大会出場、今後の生き方について朝まで討論をしていました。

大学在学中は、卒業したら母親の診療所を引き継ぐのだろうと思っていました。

しかし、大学卒業時のアイホの追い出しコンパの席上、上條一也部長から「三邊は学生時代部活しかしていない。1 年でも長く大学に残り、自身を鍛え、さらに後輩(医学部、アイホ部員)の面倒を見なさい」と言われ、本日になってしまいました。

これまでお世話になりました先輩、後輩の先生方、大学・病院の職員の皆様ありがとうございました。最後に日本一の大学になった暁には、世界一の大学を目指し、次世代のオール昭和の皆様、頑張ってください。

3月11日『東日本大震災』の黙とうについて

管理課



平成 23 年 3 月 11 日(月)午後 2 時 46 分に発生いたしました『東日本大震災』の被災者の皆さまを悼んで、半旗を掲げるとともに院内放送にて今年の 3 月 11 日同時刻に 1 分間の黙とうを実施いたしました。

3 月 11 日前後のマスコミ各社の報道は、この大震災の現況一色となり、被災者の皆さまの今を伝えておりました。しかし、大震災発生から 2 年が経過した今も、被災地では未だ復興とは程遠い現状にあり、心が痛むばかりです。

藤が丘病院、リハビリテーション病院スタッフ一同は哀悼の意を表するとともに、一日も早い復興を祈念しております。

『その他行事について』 — 2013 年 1 月～2013 年 3 月まで —

平成 25 年 3 月 8 日(金)から開催された「第 31 回日韓社会人親善馬術大会」(韓国・イチョン)にて、藤が丘病院事務職員である筒江麻亜耶さんが日本代表として中障害飛越競技・馬場馬術競技で最優秀選手賞(MVP)を受賞いたしました。

また、筒江さんは、同月 23 日(土)から開催された「第 31 回全日本社会人馬術選手権大会ファイナルドレスサージュ」(JRA 馬事公苑)にて個人優勝を果たし、所属する昭和大学ライディングチームも団体優勝を飾りました。



《 競技の様子 》



《 騎乗にて 》



《 受賞者は、写真左側 》

昭和大学藤が丘病院、リハビリテーション病院では、ボランティア活動をいただける方を募集しております。

《活動内容》

● 外来部門(藤が丘病院・リハビリテーション病院)

外来部門で患者さんが困ることについてのお手伝い

(場所案内、問診票代筆、車椅子介助、親の受診時の子どもの見守り等)

● 小児病棟部門(藤が丘病院のみ)

遊び相手、学習援助、食事介助(声かけを含め)、イベントの参加等の活動

● ブックサービス部門(藤が丘病院のみ)

外来に常設してあるブックワゴンと病棟巡回用ブックワゴンの整理、補充、管理、病棟移動図書活動

● 一般病棟部門(リハビリテーション病院のみ)

看護師の指導のもと、患者さんとのコミュニケーション活動



《ボランティアサマーコンサートの様子》

《活動曜日・時間》

● 活動曜日 月曜日～金曜日(平日)

● 活動時間 外来部門 9:00～11:30、小児病棟/一般病棟部門 10:00～17:00、ブックサービス部門 9:00～13:00

※その他ロビーコンサート等も随時調整しております。活動時間は、上記時間帯の中で、皆様のご都合のよいお時間に活動いただいております。

くわしくはボランティア係(代表:045-971-1151よりボランティア係を呼び出し)へお尋ねください。

『診療統計』 2013年1月・2月

	藤が丘病院		リハビリテーション病院	
	1月	2月	1月	2月
外来患者数	30,835人(1,340.7人)	30,158人(1,311.2人)	4,821人(209.6人)	4,801人(208.7人)
入院患者数	14,484人(467.2人)	14,156人(505.6人)	5,283人(170.4人)	4,988人(178.1人)

2013年1月～2月0内は1日平均

《編集後記》

3月に入っても、三寒四温とは程遠い日が続いています。

季節の代わり目や節目の言葉として、「春分」や「立夏」などは聞き覚えがありましたが、二十四節気では、3月5日から19日まで啓蟄(けいちつ)という節目となることを知りました。浅識なため、インターネットで調べてみると、『啓(けい)はひらく、蟄(ちつ)は「土中で冬ごもりしている虫」の意味で、大地が暖まり冬眠していた虫が、春の訪れを感じ、穴から出てくる頃』だと知りました。また、菰(こも)はずしをこの時期の恒例行事にしているところも多いようです。勉強になりました。

個人的に虫はあまり好きにはなれないのですが、「啓蟄」から「春分」を経て、早く暖かい日が続くことを祈っています。 小野寺正則

《編集委員》

三邊武幸	吉村吾志夫
谷山松雄	池田裕一
田口清	高橋良昌
西山謙一	上ノ宮彰
吉原利栄	伊藤久美
高橋良治	庄司博
久保田浩司	小野寺正則

(順不同)